

ASEAN グローバルプログラム

遠藤 友哉

Tomoya ENDO

機械システム工学科 2年

1. はじめに

ASEAN グローバルプログラムは、日本で生活しただけでは見たり、知ったりできないことを体感して、未知の世界に飛び込む行動力、最後までやりぬくタフネスさ、自分の頭で考え課題を解決する能力を学習目標とするプログラムであった。このプログラムではまずベトナムのハノイで栄光堂、Rikkei Soft、NTQ への企業訪問を行い、ハノイ工業大学では、ベトナム人学生との PBL 学習と、成果発表を行った。そして、ベトナム滞在の最終日には戦勝記念博物館、民族記念博物館に訪れた。

一方、シンガポールでは WASABI CREATION の Tong さんの講演会の後、南洋理工大学では授業の体験、Labo ツアー、NTU の日本人学生との懇談会を行った。さらに Google 社への訪問、若手の海外で仕事をしているビジネスパーソンの方々との交流会、加藤順彦さんの講演会。おおまかではあるがこのような内容で 10 日間の研修を行った。

2. 参加目的

このプログラムの存在を知ったのは 2 年進学時の履修説明会で、このプログラムの参加を募る紙を手にし時であった。それまでは漠然と海外に行ってみたいと思っていた私はこのプログラムに心を惹かれた。そう思ったのには 2 つ理由があり、ひとつは値段の安さであった。すべての費用を合わせて約 15 万円で、10 日間海外で活動できる事を考えると価値のあるプログラムと感じた。

もう 1 つは訪れる国がベトナムとシンガポールであったためである。ベトナムは著しく発展している国であり、町の風景や現地の学生の考えなどに興味があった。シンガポールは観光業で先進国に仲間入りした国なのでどのような観光名所があるのかを見て

みたかった。これらの理由によりこのプログラムに申し込む事を決めた。数人の友人とも一緒に行こうと話していたことも参加を決めた理由のひとつである。

3. 研修内容

1 で述べた行程のなかで私が刺激を受けたのは、南洋理工大学への訪問であり、以下に、詳しく述べる。先に南洋理工大学の雰囲気について書く。南洋理工大学は QS 世界大学ランキング 11 位でアジア圏内では 1 位である。訪れる前は設備も整っていて綺麗なキャンパスを想像していたが、実際尋ねると想像以上にすばらしいキャンパスであった。大学内を無料で走っているバスがあるほど広く、学食以外にも多くのお店がありたくさんの緑もあった。学生は国際色豊かでみんな自分の PC を持ち歩いている。次にプログラム内容について話していきたいと思う。はじめに Xie Ming 先生の授業を聴講した。これは南洋理工大学のプログラムの中でも一番刺激になった。それは日本で私が受けている授業との間に大きな差を感じたためである。授業は英語で行われていたので全て理解できたとは言えないが、これほどまでに興味をそそられる授業を今まで体験したことがなかった。これはおそらく Xie Ming 教授の手腕もあると思うが、公式を導き出すときに、日本では結果からそこに至るまでの過程を導き出していくのに対し、Xie Ming 教授の授業では過程から結果を導き出す授業をしていたという点で違っていた。さらに学生参加型であったという点も良いと感じた理由の 1 つであった。授業のあとは Labo ツアーに参加した。ここで印象に残っているのは車の研究室とロボットの研究室であった。元々車関係の仕事に就きたいと思い機械システム工学科を志望した私にとっては興味深いラボだった。ラボ内には 3D プリンターで製作された車重約 100 kg のオリジナルカーやソーラーカーなどが展示されていた。自分たちの作った車を説明している学生たちがすごく目を輝かせて話してくれていた。研究室を選ぶ時期に

この研究室を訪れたことによって自分のやりたいことをしっかり見つけて妥協しない研究室選びをしたと思った。また、ロボットの研究室では物の仕分けができる機械、マンホールの中を探索する機械などの社会で活躍できそうなものと、指定したシャツを取ってくれる機械などの家庭で役立ちそうな機械の2種類があった。まず驚いたのは製作しているロボットが全て大掛かりなものだったことだ。私の思っていた研究室は狭い部屋でこじんまりと研究しているイメージだったが、広い部屋でいくつものロボットをつくっていた。たくさんの人がいて、世の中を便利にするものづくりがそこにはあった。南洋理工大学の研究室を訪れて、自分のやりたいことを再確認でき、今ある勉強をしようと思った。

その後、南洋理工大学で勉強されている日本人の小川さんと多田さんの話を聞いた。彼らは大手の会社に勤めているにも関わらず安定を求めず自ら新しいことに挑戦している姿は社会人になっても見習いたいと思う。短い時間ではあったがお二人の話や質疑応答を聞いて、次の機会にインドに行ってみようと思った。それは、小川さんが行っておいたほうが良い国はあるかという問いに対しインドと答えており、その理由として発展途上の国にいくと価値観が変わるし、日本での常識がほとんど通じないとおっしゃっていた。私自身もベトナムでこの事を実感していた。ベトナムでもさまざまな違いを身をもって実感できたが、インドではそれに加え、宗教的な違

いも感じる事ができると考えている。今回は先生方や仲間といたので助け合ってなんとかやっていけたが次回は1人でインドに行ってみたい。今まで海外には観光目的でしか行きたいと思わなかったが、世界を肌で感じるために発展途上の国にいきたいとなるような機会をもうけてくれたこの懇談会には大いに感謝している。

4. おわりに

学生が海外に行って物の見方が180度変わったと言っていることがよくあるが、海外での経験はそこまで人の価値観を変える何かがあるのかという期待感とそんなに変わるわけがないと思う疑心感をもっていた。私と同じように海外に行きたいがそんなに変わるものなのだろうかと感じている学生もたくさんいると思う。また、自分を変えたかったり、日々の生活に退屈している学生もたくさんいると思う。そんな学生はすぐに海外に行くべきだし、このプログラムを利用するべきだと感じた。私は今まで何となく大学生活を過ごし、今すぐにしなければならぬこと、社会に出るまでにやっておくべきこと、英語の大切さ、そして自分の夢を再認識することができたりとこれからのキャンパスライフをより充実したものにするには十分すぎる収穫を得た海外研修だった。この経験は今後の人生の大きな糧になることは間違いないだろう。